

学力向上は日々の授業の充実から

～ 主体的・対話的で深い学びの実現をめざして ～

◆ みやざきスタイルの国語の授業 ◆

「言葉による見方・考え方」を育成する授業づくりを5Stepで!

キーワード

5つのStep

単元計画

指導と評価の一体化

ポイント
1

～単元の指導計画の立案～

年間指導計画や単元計画に基づいた指導事項（指導事項の内容）を確認し、目標や言語活動を設定したり、評価の計画を立てたりしながら単元全体を見通した授業構想を練る。

- Step1 → 単元で取り上げる**指導事項**の確認
- Step2 → **単元の目標**と**言語活動**の設定
- Step3 → **単元の評価規準**の設定
- Step4 → **単元の指導と評価の計画**の決定
- Step5 → **評価の実際と手立て**の想定

左の5つのStepの詳細については、研修センターHP内の、「小学校国語」「中学校国語」をクリックしてください。



第1次

- ・言語活動全体の見通し
- ・身に付ける力の意識化

第2次

- ・教科書教材を使った、言語活動に必要な力を身に付ける学習

第3次

- ・自分の表現への適用
- ・身に付けた力の振り返り

ポイント
2

～1単位時間の学習指導過程の計画～

1単位時間の授業の中で、指導事項をより重点化し、目的意識を明確にした展開や、学習内容及び身に付けた力等を振り返る活動を工夫する。

授業で心がけたいこと

導入

目標を明確に

- 学級全体で学習課題や問い等（めあてや言語活動等）を提示し、**学習の目的意識を明確**にする。
- 読みの視点や調べる視点等の**学びの視点を明示**し、学習の進め方への見通しをもたせる。

展開

考える・表現することを意識して

- 学習課題や問い等（めあてや言語活動等）について、**自力で解決する場と相互に話し合う場を設定**する。
- ・ 書かれていることから情報を取り出す発問と、取り出した情報を基に考える発問を位置付ける。
- ・ 話し合いを充実させるために、話し合いの前に、話し合う目的（考えをまとめる、考えを広げる等）や内容を確認する。
- ・ ICTを効果的に活用し、考えたり表現したりする学習がより深まるようにする。
- 自分の考えを**条件に合わせてノート等に書く活動を設定**する。

終末

目標の達成を確実に見届けて

- 学習内容や成果を**振り返る場を設定**する。
- ・ キーワード等を基に、学習内容を自分の言葉でまとめさせる。
- ・ 学習課題に即した力をどの程度身に付けることができたか、自己評価や教師による見届けを行う。

～学習活動の工夫～

子どもが言葉を通して、主体的に「考えたい」「表現したい」という思いをもつことができる学習活動を工夫する。

子どもが興味・関心をもって取り組める**言語活動を設定**し、国語の力を育みましょう。

例えばこんな言語活動を…

- 小学校**
 - ・読んだ本の好きなところを紹介する。
 - ・簡単な手紙を書く。
 - ・調べたことを報告文に書く。
 - ・出来事を説明するスピーチをする。
 - ・記事の書き方等に注意して新聞を読む。
 - ・調べたこと等について討論する。
- 中学校**
 - ・行事等の案内や報告をする文章を書く。
 - ・物語を読み、感想を交流する。
 - ・論説等の情報を比較して読み、書く。

- ★ **各学年の指導事項と結び付いた言語活動、興味・関心をもって取り組める言語活動を設定することが重要です。**
- ★ 導入では、モデルとなる言語活動を提示するなど、**単元全体の見通し**をもたせると、展開では、言語活動を通して**ねらいとする国語の力を育成**することを意識した指導計画を設定することが重要です。

学習過程に「**考えの形成**」を位置付け、思考力・判断力・表現力を育成しましょう。

	A 話すこと・聞くこと			B 書くこと	C 読むこと
学習過程	○話題の設定 ○情報の収集 ○内容の検討	○話題の設定 ○情報の収集	○話題の設定 ○情報の収集 ○内容の検討	○題材の設定 ○情報の収集 ○内容の検討 ○構成の検討 ○ 考えの形成 ○記述 ○推敲 ○共有	○構造と内容の把握 ○精査・解釈 ○ 考えの形成 ○共有
	(話すこと) ○構成の検討 ○ 考えの形成 ○表現 ○共有	(聞くこと) ○構造と内容の把握 ○精査・解釈 ○ 考えの形成 ○共有	(話し合うこと) ○話し合いの進め方の検討 ○ 考えの形成 ○共有		

★ 上記の学習過程は、**指導の順序性を示すものではありません**。単元や題材の内容や教師の意図、学級の実態等に応じて、入れ替えたり、繰り返したりしながら、学習が深まるように授業を構想しましょう。

★ 思考力・判断力・表現力等を育成するためには、学習過程の様々な場面において、子どもたちが**目的をもって思考し**、話す、聞く、書く、読む力を高めることが大切です。

～考えを表現させる学習場面の設定～

表現することを通して考えを確かなものにしていくための考えを表現させる学習場面を設定する。

- 指導の基本
- 考えたことや感想を伝えるための語彙や表現について指導する。
 - 話し合いを充実させるために、話し合いの前に話し合う目的や内容を確認する。
 - ノート等に考えを書く時間を設定し、一人一人が考える時間を保障する。
 - ノート等、考えを表現したものを媒体として互いの考えを交流し合えるようにする。
 - 文字数を制限したり、重要語句等のキーワードを使用したりする等、条件に合わせて、自分の考えを記述させる機会を大切にする。

～指導と評価の一体化～

評価規準を基に、授業の構想と実際の学習活動を踏まえ、「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)の子どもへの手立てを講じ、授業改善を進める。